



物撰石前和撰
下

伊地知文庫
文庫20
194
2



家
世乃云尔之類多鞠の音乃り所中何程の事之類

目錄

伊地知氏音冊

- | | | |
|-----|------|----------|
| 世一海 | 軍一泊 | 中一開 |
| 世二浦 | 軍二嶋 | 中二部 |
| 世三濱 | 中三灘 | 中三部 附家 |
| 世四瀉 | 中四沖 | 中四里 |
| 世五江 | 軍五塔電 | 中五村 |
| 世六磯 | 軍六野 | 中六園 |
| 世七洲 | 軍七原 | 中七田 |
| 世八崎 | 軍八牧 | 中八市 |
| 世九津 | 中九森 | 中九部 祇 附社 |
| 中十漆 | 中十林 | 中十釋教 附寺 |

初撰名所和歌抄下

伊地知氏書冊

下野國下都賀郡
大前村百十番地
山主家光信

卅一 海

後撰

伴務海 伴海

後撰 伴務海のあはれをいふ海あまのうらみとていふ
心海の清き海は海の心も清きなりと云ふなりと云ふ

伴豆海 伴豆

伴海と立白海のまつりしはさるる地の記と云ふ

平南海 情磨 平面部

名上りたあまの海の沖の海らふれぬと云ふ記と云ふ

生田海 栲津 八歌部

と云ふ記と云ふ海はいふなりと云ふ記と云ふなりと云ふ

湖海 近江

新軸 湖の海や霧をよみ舟のりや春風を帆に

床海 末勸國

床の海の秋をよみ波をよみ風をよみ中はよき言のりなる

芽海 和泉

らぬれり演の小杉をよみ我をよみ舟をよみ

香取海 下総 香取郡

舟をよみ風をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ

興謝海 丹後 余謝郡

舟をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ

高津海 朽津 高津郡

名ふるはたの海風真なることこれなりし語の

難波海 同 備馬樂呂

梅花の風をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ

那古海 任吉郡

みの海風をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ

桑古海 越中 耐水郡

あはれり舟をよみ舟をよみ舟をよみ舟をよみ

常津 常津

常津なる岩坂の海をよみ舟をよみ舟をよみ

武庫海 朽津 武庫郡

武庫なる岩坂の海をよみ舟をよみ舟をよみ

此の海は... 船の上... 年妻部

年妻部

紀の国... 年妻部

猪名野海 杉浦 行色部

大津... 船の上

の猪登海 猪登

猪登海... 船の上

相生海 伴部 祠書部

此の海... 船の上

出雲

此の海... 船の上

奥海 淡奥

此の海... 船の上

ま 杉浦海 肥前 杉浦部

此の海... 船の上

け 氣比海 越前 越前部

此の海... 船の上

ふ 平野海 越中 越前部

此の海... 船の上

越前部

越前部

越前部

おれらのあひだりも 橋神りくたふらぬ 舟のあはれも 舟のあはれも

おの舟の進前と 浪の後の舟 浪の後の舟

の 近江海 舟

万石松橋

あまの海夕浪の島より 舟のあはれも 舟のあはれも
阿波の海漆りやたらふらぬ 舟のあはれも 結多ん
舟のあはれも 舟のあはれも 舟のあはれも

是利海

舟のあはれも

高橋のあはれも 舟のあはれも 舟のあはれも

有儀海 遊中

あつたうし海なる 舟のあはれも 舟のあはれも

舟のあはれも

うてあつたうし海なる 舟のあはれも 舟のあはれも

阿古海

長門

阿津風う海なる 舟のあはれも 舟のあはれも

安智方海 末助岡

まろ風あつたうし海なる 舟のあはれも 舟のあはれも

き 紀伊海 紀伊

き 紀伊海なる 舟のあはれも 舟のあはれも

わ 三方海 若狭 三方郡

こいし 舟のあはれも 舟のあはれも 舟のあはれも

後河海 後河

後河なる 舟のあはれも 舟のあはれも

飯方浦 信濃 飯方郡在神社

寺長水の橋のこもり神代たてりかきり

珠洲浦 越中

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

世一浦

生田浦 杉津 八龍郡

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

一志浦 候沙 一志郡

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

磯田浦 郡不審

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

石浦 紀伊 海部郡伊賀の海

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

磯浦 越中

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

錦浦 出雲

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

二十舟浦 津奥 石見郡

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

鞆浦 備後

寺長浦のこもり寺長浦のこもり寺長浦のこもり

万 心ゆくも月夜浦のしら萩のこぼれをよみて

高野田浦 竹坊

那をよみて風よふをよみて

床浦 末助岡

やぐら松の上は風は燈のこぼれをよみて

ち 茅俣浦 和泉 和泉郡

妹は光貝とひらきとあはれに

千坂浦 佐伯

若くはのねとあはれに

知田浦

あゆらたはらひとあはれに

千賀浦 筑前

ちれり小浜とあはれに

ち枝浦 末助岡

秋風のちえり

ち 若浦 紀伊

初言るや月のてをよみて

わかれ浦とあはれに

初言るや月のてをよみて

里のうらやまの葉をよみて

形見浦 紀伊

深から舟沖渡りて

後刻

香推浦 籓前

心也かおの浦谷城社へおれて物なつとえ

大綱書 籓人

風早浦 駿河 彦原部

我友妹節りかたの浦の事の上書ふのみり

葛籓浦 下総 葛籓部

中かろ海流のうら書ふんそのの事記也

香取浦 香取部

友家り風のうら記と流らんくくも村の事

舟の舟の事記の事記と流らんくくも村の事

舟の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

後拾 香取浦 下総 香取部

つおの事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

余古浦 伊予部

衣の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

興野浦 丹後 興野部

塩の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

大高野浦 和泉 大高部

着の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

田龍海 駿河 田龍部

花の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

沖の事記と流らんくくも村の事記と流らんくくも村の事

万石

多指浦

中

射水水海

夏ノ海の原を合者流と云ふ也

後石

高田海

常津

余亦之社也

高砂海

情廣

杉崎風を著言の海と云ふ也

玉海

礼休

うまの海を著言の海と云ふ也

玉海

籠

杉崎の海を著言の海と云ふ也

神浦

出羽

万

神の海を著言の海と云ふ也

あまの海を著言の海と云ふ也

神浦

出羽

神の海を著言の海と云ふ也

津守海

杉津

任者部

神の海を著言の海と云ふ也

長吉海

神の海を著言の海と云ふ也

神浦

神の海を著言の海と云ふ也

素良海

近中

大層風の成りしる本令あひ急殊もき那上
心流り入心守りてあきあきと風を率て下
物も清き風心流り控干れはあつた
しる風あつたはあつたの釣糸流りたる
大納言 旅人

宝湾

播磨

しるの海をたれり海成り流しれれ急え

の野海

くは

やう野海のもあはれはあつたあつたのうへ

野海

肥後

豊中郡

美州野海のもあはれはあつたあつたのうへ

大悔田海

杉津

八郡

候きしる海のもあはれはあつたあつたのうへ

大渡海

伊勢

大渡のともあはれはあつたあつたのうへ

大渡のともあはれはあつたあつたのうへ

出渡

横あつたあつたのうへはあつたあつたのうへ

大浦

遠江

大浦のともあはれはあつたあつたのうへ

名

見あつたあつたのうへはあつたあつたのうへ

大浦

中

村水

川下
鳥のあそび我の思ふ如くは風は我がものなる風あり

鳥洋浦

持統天皇御國の御筆の御紙の御紙の御紙

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

ま 野浦 杉浦

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

まの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

近江

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

真名浦 下総 葛飾郡

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

真名浦 下総 葛飾郡

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

麻利舟浦 田沼

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

杉浦 漢路

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

杉浦 漢路

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

け 杉浦 漢路

川下
おぼろの御紙の御紙の御紙の御紙の御紙の御紙

李浦 後方

吾乃行移海のくむ女々々事毎の因りて如く地長

二見波 任務

ゆらぐ元風はゆる波の神の風沖つ波はゆる人寒痛

玉も二頁のく風志のまき給ゆる村の村志弘

情摩 まうあ深中らまの湯金う

夕月表の海風とまも元れ浦のつてらんり甚浦

右に波

真のく取波の風を浪花のく算るくう赤人

あふふの若に浪はくくくかかん松川村と人丸

踏の若に浪の沖の風表とく月あはるく弘仲

吹敷浦 和泉 日振部

く松のくあわの波と善信く給の松月く言れ若葉

下津比事の風はゆる波のあ火雲の海くうく若葉

沖の風表の海と浪のく浪のく松の松月 出流

布勢浦 越中 謝水部

風はゆるくまの首表の太文くくうくつり乙福免

あはれは布勢のく浪の浪とく浪の浪とく家持

古江波 東勢岡

百代の浪をくくく浪の浪は古江の浪くくくく模

世路波 越後 古志部

若葉彌依渡下向の村越後く西寺浪の

花初着うらこゆりけり

也思ひ出さぬ風の白浪と立向の影ひをこころきり

の浪香浦 杉津 恒春郡

名れは憶ふさき暇に恒春ありて風は以て下りてより潮も
恒春のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

蕙屋浦 菅原郡

の浪のありて浦の浪下りて風は流るる雲のを語る

阿波之浦 尾張

若小まありて浦の浪下りて風は流るる雲のを語る
赤松のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

秋恋のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

阿波之浦 尾張

冬うらあきし海流のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

有儀海 赤市 謝水郡

今れは思ふありて風の浪のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

ぬる海 情磨

今れは思ふありて風の浪のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

海流のありて風の浪のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

阿波之浦 赤市

今れは思ふありて風の浪のありて風のこころは思ひのこころ下り杉やたは

り七

三巻若海

蓋若海にきよく浪はくしよる我のりく 鏡高

江橋七

三津浦 杉津 西生歌

難所津と多奈津の浦毎是れ海にうらや

三六女浦 法政

百六箱方

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三穂浦 駿河 彦原歌

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

三巻若海にきよく浪はくしよる我のりく

り七

千四 小羊志るる此物是六寸重上島神のおまじり 信巻

滋賀浦 志る

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 桂巻

千 櫻 櫻は志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 良鏡

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

信津浦 信津部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

信電浦 信電部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

信又浦 信又部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

志か浦 志か部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

信又浦 信又部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

信又浦 信又部

千 志るは原まに江也功るんをさるり以志れ信 公舎 大野大長

後拾一 藻塩浦 未勘田

後拾二 紋屋のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ 荻原

後拾三 飯磨浦 朽津 八龍郡

後拾四 工のりともふあつた海に浦と不登つてふふふの筆

後拾五 ちの海に寸草の月夜をさして 信濃の浦に雲影の如き 秋隆

後拾六 榎林の浦のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ 荻原

後拾七 信原のふれんと結わけ浦の朽れ津をいさゝかえ

濱

出見濱 朽津 信原部

後拾八 信原の出身の浦のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ

後拾九 船代濱 紀伊 日高郡

後拾十 農代濱のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ 荻原

後拾十一 遠津濱

後拾十二 山を渡る浦のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ

後拾十三 子為濱 伊勢

後拾十四 その海に霞のうけりもいさゝかえ 荻原

後拾十五 紀伊 日高郡

後拾十六 五ヶ所がへんがりの國のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ 荻原

後拾十七 餘津濱 和摸 和摸郡

後拾十八 ころもいさゝかえの浦のふれんの夕輝のうけりもいさゝかえ

後醍醐天皇
御宇に絶えては其の漢書は毎年の御成金に納められし
後醍醐天皇御宇に絶えては其の漢書は毎年の御成金に納められし

有磯漢 中 村水親

後醍醐天皇御宇に絶えては其の漢書は毎年の御成金に納められし

昭石漢 情磨 明石親

昭石漢 情磨 明石親

能壽漢 几作

能壽漢 几作

其津漢

其津漢

同漢 豊前

同漢 豊前

三津漢 橋津 西生親

三津漢 橋津 西生親

近江 滋賀親

近江 滋賀親

正徳野漢 紅竹 年妻神前交山首

正徳野漢 紅竹 年妻神前交山首

滋賀漢 子江 志布多親

滋賀漢 子江 志布多親

信濃漢 中 村多親

信濃漢 中 村多親

それらの志は漢書に記され其の志は漢書に記され

任音漢 朽津 任音歌
任音の漢はうさるる古風を事え我の心も云

鴻

石見鴻 石見

石見の恨を我の心につはしうりてふらふが 羨の言
石見の浪をその心毎のよきにうはせぬ火と雲

香推鴻 筑お

時津風吹か成ぬぬれた徳いれとてりてふ小野光
新波の 朽津

那所の心はあつた心は海と云の三つとてりてふ雲
那所の心はあつた心は海と云の三つとてりてふ雲

鳴海鴻 尾張 北智歌

入秋のそる静をえとてりてふ月と雲とてりてふ雲
海上鴻 下総 海上歌

可 夏を列する心はあつた心は海と云の三つとてりてふ雲
相浦の 肥前

本意の心はあつた心は海と云の三つとてりてふ雲
二見鴻 伴勢

秋並の心をあつた心は海と云の三つとてりてふ雲
葦原歌 朽津

後撰 可 秋並の心をあつた心は海と云の三つとてりてふ雲
淡路の 淡路

新橋

あつとせしは遠く吹かひやまの舟人

後高

明石湾

播磨

新庄

ゆふのまの風の神をすくふ月やうゆふ

秀清

安次如雲

百

つとむの遠くをたあふまきふれんちの

淡香湾

日布

淡く遠くは思ふうあう花風よふあふ

清見階

駿河

唐原部

日布

清く遠くは思ふうあう花風よふあふ

日布

清く遠くは思ふうあう花風よふあふ

象渡

出羽

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

江

引込細江

遠江

百十

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

細江

杉津

信吾部

釣

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

堀江

百七

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

百六

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

百五

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

百四

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

百三

事かたてふらふくや海風を我舟ゆり

全六 小野 舊江 伴波

心の海よりあはれに朽て都のくくあはれいそは 伴波

玉江 杉津

玉江や多方あやめり 見こひう宿たつまてんあひさ実

又月あは玉江のまやあはれんき島の下あはれいそは 伴波

伴波

夏ら風雲のらひ秋そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

玉江 津島 玉江

漆の玉江のほろ舟塔そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

籠麻江 玉江

津島にり店あはれいそはあはれいそはあはれいそは 伴波

津田 籠麻一院をいそは

風雲の浪くはんと約程はあはれいそはあはれいそは 伴波

奈美江 中 杉津 岩親 在月名

漆の玉江のほろ舟塔そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

那波江 杉津

那波江のほろ舟塔そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

那波江のほろ舟塔そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

流江 伴波

那波江のほろ舟塔そとをう玉江の月あはれいそは 伴波

巨椽入江 山城 宇治郡

藤之入江のりまのゆのゆん田井上層

草如矢江

以後は標

草のりまのゆのゆん田井上層

真向入江 下総

ろ志のりまのゆのゆん田井上層

鶴のりまのゆのゆん田井上層

依江 杉津

心とて湯たぬのりまのゆのゆん田井上層

三浦江

新土郡

三浦江のりまのゆのゆん田井上層

以後は標

みゆのりまのゆのゆん田井上層

水江 丹後 土御郡

美鴨のりまのゆのゆん田井上層

花弾細江 花弾 芒城郡

あつ下平のりまのゆのゆん田井上層

黒江 杉津 豆巻郡

以後は標

打虫のりまのゆのゆん田井上層

殺虫のりまのゆのゆん田井上層

以後は標

須衣入江

あち風はしほれぬあまのつねにわが我待つるに於てのこ
儀

苗詠成

漢路

風ゆりしぬ成のこころをさおの浪はあつり

雄詠成

津奥

わが心をばう成の心抱てまの風吹くよふに

杉詠儀

河原五

杉詠の成はけりあつたのよふにまの心はあつた

小糸詠儀お標

あつた心成をよふにまの心抱てまの心はあつた

指出成

甲斐

後の山風は成は成のよふにまの心はあつた

小竹詠成

石見

小竹や成はけりあつたのよふにまの心はあつた

佐賀成

津奥

佐賀の成はけりあつたのよふにまの心はあつた

滋賀成

甲斐

約きて成はけりあつたのよふにまの心はあつた

白詠儀

礼休

海部成

中ね成はけりあつたのよふにまの心はあつた

繪詠儀

漢路

百 玉 後院 百一

千六 八木の香海の浦上言信て寄る八月個々 秋暮

例

長洲

杉津

河内郡津尾

念もはるく海津のふりまはるて神を待つ

古

伴也

河内

権小あふ浪の浦をまきれりてなれりて花を待

千

伴良

志摩 志麻

玉妙りりて海津のふりまはるてなれりて花を待

あふ浪の浦をまきれりてなれりて花を待

石津

備中

土津とて海津のふりまはるてなれりて花を待

兼清

備中

昔戒定惠のふりまはるてなれりて花を待

兼清のふりまはるてなれりて花を待

西園のふりまはるてなれりて花を待

あふ浪の浦をまきれりてなれりて花を待

兼清のふりまはるてなれりて花を待

兼清

備中

あふ浪の浦をまきれりてなれりて花を待

兼清

備中

あふ浪の浦をまきれりてなれりて花を待

雄略記

相傳也志より傳の夕露たのひも世に傳はるる記

藤田江崎 杉津 八部郡

夕ははしむ風傳と漕舟はるり傳也とて浦を大發長

唐傳 近江 志賀郡

へく海も志風傳とららぬ大發の舟傳のり人も

は種とらるる傳とらるる細の船傳のり人も

唐傳 常陸 赤松郡

敷より海傳の浪言とてやゆえ乘とて也と傳奉

金津傳 筑前

ふりやうのり傳とて我のり傳のり人も

神傳 杉津

か傳のり傳とて伝はるるやゆえ伝はるる

多指傳 近中 月記

多指傳言志の部云云とて傳はるるやゆえ

野傳 杉津

とてや傳のり傳のりやゆえ

定戸傳 淡路

江傳のり傳とて我のり傳のりやゆえ

はは奇伝と傳字はは傳之教也

勅令七列定戸傳とありの傳部入

野傳 淡路

百 野の女とて夏草此野の詩上唐にこれ
十 遠く好詩のありは風吹ぬ日そよご後

道心

万 事この野の詩のありは浪と雲のあり
七五九 大納言

安房

万 東海に好詩のありは浪と雲のあり
二八〇

生詩 道中

日毛 葉の詩花のありは浪と雲のあり

松詩 山城

こせう松詩よじれおつて山ありて
之癖

小嶋詩

今もか笑ありてん橋のありて詩の款冬に花

老翁南詩 武藏

あつたあつたの詩花のありてやあつたあつた

安礼詩 泰河

あつたあつたの詩花のありてやあつたあつた

淨見詩 後河 彦原歌

あつたあつたの詩花のありてやあつたあつた

由良詩 紀伊 海部歌

あつたあつたの詩花のありてやあつたあつた

あつたあつたの詩花のありてやあつたあつた

三橋詩 大和城上歌 北海をよみてあつたあつた

^三うらうらうとほろほろと悔くさくさうと涙あふく人
^七之瀧のほとけありてはるるのほろほろと涙あふく人

始身之詩

^八いふ方城を所請の秋萩は月ありとあふく人

市輿之詩 お模 道念歌

^十多うのこゝれ請ふとあふく人

三浦之詩 け浦歌

^{十一}志は遠く請ふとあふく人

水尾之詩 出江 志浦歌

^{十二}思ふと恨れと請ふとあふく人

繪鴻之詩 浩路 津右歌

懐磨之詩 月夜を思ふとあふく人

津

高津 杉津 志部

^{十三}志は遠く請ふとあふく人

津

^{十四}志は遠く請ふとあふく人

^{十五}志は遠く請ふとあふく人

志部 志部

^{十六}志は遠く請ふとあふく人

杉津 志部

^{十七}志は遠く請ふとあふく人

秋田津 伊豫

百家の太受のあき場上舟なりすらん年の志くき者人

津玉津 茂苑 河玉親

津玉津止うあ風とさうあおとこよ絶り

三津 松津 西生親

物るれ海ら漕出れらう三津の松原江うよんあ

三津のあしり海とくあてさうらん河川でん

白船のあふふぬ船とていりてれ我さうさ

志懸や船の河津のうと我志とらるか後前

敷津 仁吉親

舟のうあしりも松原え船津れりはあさうと実方

滋か美津 近江

河津の志津の海吉の我のり我食のあせと船津れり泉良

さ浪の志津のうり河のうとせれはれうあうん

信津 後井親

あうるあし信津の河津舟成るのりはれはれうあ

漆 橋保漆 橋廣 橋廣親

あうるあし信津の河津舟成るのりはれはれうあ

懸漆 丹波

あうるあし信津の河津舟成るのりはれはれうあ

興謝漆 丹波

あうるあし信津の河津舟成るのりはれはれうあ

相伝うよき漆の夕露こころえ沖つ燈凡 故筆
舟よりよき漆の燈は友より頼みの為なり 頃以

神漆

鏡子

式言也

博多の漆の所より舟運風多し 此より一丁 家名

神以漆

栲漆

西生紙

雲はれ那波の意はありぬ漆との島より 又 繁葉保

精石漆

ふたの丁より漆の所より又鹿其言ありぬ凡 漆伝

風雲と也やふかき漆との所より 又 漆伝

きと漆

竹漆

伊勢の漆の所より細の所より 又 恨てそより 友兼

後標十三

尾野漆

延喜式

その海より漆の流はありぬ漆との所より 又 漆伝

八十漆

白

下又五

八とち抄にありぬ漆の所より 又 漆伝

代漆と博多の漆の所より 又 漆伝

由良漆

乳竹

海部部

きの國の漆の所より 又 漆伝

水莖漆

由良

あまきと白と漆の所より 又 漆伝

白菅漆

遠江

相伝の海より白菅の漆の所より 又 漆伝

後標七

新編

以良保 子之 後かた

我舟の清く清く流るるをいふことごとく其より黒く

伯 唐琴伯 備か

浪の言はれ給うるは安んずる事也

轉伯 後か 志摩郡

う伯のいふ浪は日おれとくし其れ日お

結古伯 同部

凡者いふ浪はくもこの風まうし上りたて

明石伯 備磨 ゆる

二發きく心おとすはありの伯をりこと

三津伯 標津

大伴のいふ舟は志田の山より

伯 伴

是浪のいふはあまのあまの

伴良廣 志摩

穴蟬の余と新浪はれ

長くいふ浪は

家鴻 備磨 柏保親在部

家鴻の若くは

祝鴻 同部

草枕核の念ひの語者母のそと祝来りらん

妹か大語 紀伴

しら舟中漕りし妹の語をこぼれし海よりうらりる子後家

百語 淡語

耳かきぬとてなまの程語の漕り舟をつらぬ人も

雄湯 陸奥 文城記

秋の長月やなすれよあはれとてふけの物舟家陸

河語 杉津

道まひひあてうり此あの流れに絶りそあひる業平

香語 竹登 紀伴記

うらりるまはれとて清舟に握る肌熱のあはれ

麻語 紀伴 目子記 常語 麻語 部記

見つるあはれに初月さう釣る海出る今取らん

神語 備中 小田記 在部記

神さぬ浪のまゆりあまてうりこは毎夜あはれ 資実

紀伴

月と花と清神語の成りし海と舟とに我の

か利語 長門

坐向ふあはれ語あまて我は言ふをせりらん

笠結語 豊原あ

あはれ打出る肌笠結の語漕りたる志と舟

笠結語 豊原

山行公記 懸鴻

卯花の空をくぐり行鴻は浪を空に成てく志は後

楠小鴻 山城 宇治郡

しんく 笑ふらん橋の中央に誇り山吹の花 贈

梅鴻 河内

橋の鴻は連川をくぐりくえぬのくくく下衣

田養鴻 朽津 西生記

耶所の境をくぐりあまたの鴻は川に渡り渡前

寛平の菊合より養の菊と積りりくく

田養と今もくくく志記を此系よりくくくくく

玉津鴻 紀伊 志系海記の記之を此新

玉津鴻のくくく海のまにに白くくくくくく人丸

玉津鴻のくくく身あまたのくくくくくくく

久保孔鴻 肥後

名はくくくあまたのくくくたれ鴻は浪はれくくく

竹鴻 周防

龍巻のくくく龍巻は備中但馬に杉木園入る

竹鴻のくくく浪もくくく我家もくくく

龍巻系小鴻 龍巻

山名のくくく山名はくくく龍巻はくくくくくく

長門鴻 長門 又本龍巻の國

多余名門の流のむ杉原貞世とてり神六八郎

室八郎 下野

いふ元室の八郎と宿とて元室の孫とて元と海とをん後成

浦初鴻 杉原 元伴と曰若

あま垂ひておんまはゆとてとて浦れ初鴻 戒松編

字鴻 淡真 玄城記

ついで浪のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 結實

結實のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 山景

淡真のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 山景

浦鴻 丹後 与附部

後文 淡真のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 山景

字鴻 淡真 玄城記

ついで浪のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 結實

野鴻 とて

あま垂ひておんまはゆとてとて浦れ初鴻 戒松編

元伴

我且の野鴻のまはぬ浮海の初とてとてとてのまん 山景

淡路

あま垂ひておんまはゆとてとて浦れ初鴻 戒松編

結實 結七 結七 結七

あま垂ひておんまはゆとてとて浦れ初鴻 戒松編

真小鴻 伴直

とてとてとて

新編の我々の風の邊り奥のうらまは浪のうらまは

淺摩

千八
こつとこの沖のうらまは我々の親の若くは此の風 平屋

奥湯 杉津

千八
那のうらまはこゝろのうらまは我々の親の若くは此の風

大湯 備前

千八
筑紫北のうらまは我々の親の若くは此の風

千八
大湯のうらまはこゝろのうらまは我々の親の若くは此の風

千八
那のうらまはこゝろのうらまは我々の親の若くは此の風

杉島 山城 宇治

宇治川のうらまは我々の親の若くは此の風

杉島 山城 宇治

千八
杉島と我々の親の若くは此の風

千八
さうらうの風と我々の親の若くは此の風

難波 同種 淺摩浦の真

千八
我々の親の若くは此の風

千八
次々といふれいりたつた難波のうらまは

本吉 大浦

千八
吉小浦のうらまは我々の親の若くは此の風

千八
浪のうらまは我々の親の若くは此の風

小嶋

備前

田沼親

浪下らむゆりてのそとにぬかきふたはれあふしし村
夕多乳さほつ子名は下らむゆりてのそとにぬかきふたはれあふしし村

淡路語

淡路

在部新

難波之塩いしとて凡塩は淡路の語はつ語より一強
あらうて塩をよむは淡路の語はつ語より一強
秋は淡路の語はつ語より一強

阿波語

阿波

いそは小津屋と舟あつ語とつ語はつ語より一強

安芸語

安芸

あつ語の語はつ語より一強

小津嶋

小津

あつ語の語はつ語より一強

音備中語

あつ語の語はつ語より一強

雷語

あつ語の語はつ語より一強

三語

三語

三語

あつ語の語はつ語より一強

肥後

肥後

あつ語の語はつ語より一強

万後松栞

水碓

月神

圓心事海と地やとあやしく神心とくはらうと

炭原水碓 清奥

なす方碓の古月かあふ碓の流と心とまうと

碓

碓の心と鏡と心と碓の心とありきり山所

志加碓

鏡

精を碓在耶所

連寄

つれあふ心と志の

為神

弓とら九月の入りもあつて

同志

繪碓

淡路

碓の心と碓と心と碓の心とありきり山所

碓山と心と碓の心と碓の心とありきり山所

百津碓

相模

百津碓の心と碓と心と碓の心とありきり山所

須賀碓

紀伊

碓

碓の心と碓と心と碓の心とありきり山所

碓

大碓

備前

碓の心と碓と心と碓の心とありきり山所

碓

碓

碓の心と碓と心と碓の心とありきり山所

以治奇僻備前

宗院舟車より安きより公家御座を多しつる大徳に
與

津守與

杉津

佐吉親

多し津の沖と清い家お相見とらりりり核

鳴尾與

武庫親

多し勢との山風と足る鳴尾沖初め道

鳴海與

尾張

井智親

三浦の交社とらり足るはあつし沖つ白竹

向門與

阿波

いふ光るふあつし沖つ浪のいふと志るね眼と平野

干六

津前與

杉津

武庫親

ころりしおあつし津と海を渡るは下の物と相見

杉浦與

肥前

松海親

干中

津志とるれ別つるあつしと海は與と初るあ人

鳴尾與

博磨

山形親

録かあつてならあつし沖つすうり月付後書

干初八

遠慮與

杉津

ころりるうりあつし津と海と初るあ人あつし後書

三穂沖

駿河

遠慮親

干初

津志とるれ別つるあつしと海は與と初るあ人

遠慮

後撰

千加天竺庵隆興

我皇心より隆興のちこれ後を存しより 山草

野

石田小野 山城 久世親

山城のいふ所はむかし推定も今もやる山崎のふらん 式部
きんつね 石田小野は今も善志院のふらん女もふらん

岩花小野

し別記に名をたす

岩花小野は清き後をいふもやる山崎のふらん

岩花小野 大和 十市親

いふ所の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん

伴波世親 世中 婦貞親

いふ所の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん

生野 丹後 矢田親

全

大江山の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん
大江山の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん

平南野 懐鷹 平市親

全

家内我のいふ所も平市親の法弟のいふ所も
いふ所の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん

女帝花我のいふ所も平市親の法弟のいふ所も

磐代野 弘作 日守部

全

いふ所の約ありしを今も推定も今もやる山崎のふらん
磐代野のいふ所も平市親の法弟のいふ所も

夏 畠田野 壹石

心程はるはる長急のつとて我とやいそん

千 畠田中野 表法

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

千 入野 未勢國はるを山城を知らず

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

千 遠里中野 杉津 佐吉親

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

千 烽火野 大和 漆上親

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

鳥郡野 山城

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

春日野 大和 漆上親

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

こころはるはる急な程はるはるのつとて我とやいそん

忠房

金 十日歸子日... 春此... かし... 十日... 後成

行畏野

行畏野... 持路少... 後成

持路少

持路少... 下三七秀

河口野

河口野... 何日... 家持

津野

津野... 内江

陰野

陰野... 伊勢

蛙蛉中野

蛙蛉中野... 大和

神樂中野

神樂中野... 山城

交野

交野... 河内... 交野

河内... 交野... 河内

河内... 交野... 河内

病nのnきふふまき好の好上れ茶をそを付しうり

まふあたる河の夕月長流照るにねれ好

夕栢入野 上野

あり恋いさくらの一葉栢たるの入好とくしう

子栢野

たうらふとち栢の好らに君が好志ぬ子栢の好

白露の平栢ぬ女栢花能くきうけいぬるを経平

三野 武苑 大和平野有内名

秋野栢野約む時心ありて君を恋しこく忠居

日とて栢のこころと志を野 檀 下り紅雲川名信實

高栢 紅伴

いり言野の奥の志るは秋を好くまきう 実野

院野 近 坂田

つ海の上まき葉をぬえぬまきし心志をよむ好

鳴海野 尾張 北野 院成海

高まうらうらるる好まはるるの力々書好好 為伴

武苑野 武苑

ふいふふふふふ武苑好くもつ花し好

女栢花自今好のじり好の常らむ好し好

武苑野の神いりりりりり好の好いし好

しうれゆあや好の好をぬる風来し好

茶野

山城 北野郡 在藤生郡 有日右 一葉親田玉守是也

丁酉院寺河長保二年百五の比世中
くつを凡船景のたし今ま戸神と様て
院をりてそし神をまらぬいさうありあり
ぬううしこてそ日奈ちあや

白ゆのよきふておれく院を初りしうたの院を院

内大野 大わ

正しう内の大野と約し先物さすんそまててん

宇海野 日中記 寛田 宇志

毛衣くま冬ま付くは筆せしこく出野のむりわ

こく野秋新あめこの席し妻とまら我は院に真久

うた野の身あ山うふるるう教いこま首とまら

宇祢野 大

正しう約さしれう祢の院たつてぬあぬわ

猪右野 杉津

志あつらぬお院とめ付くまら山々方まら首にら

志野うらわまはは屋ぬり枕まら院にうらりまら院ま

野上 義徳 上院部

霞三院あめこの院はく院あめこの院まらぬ

大和

あめこの院をらぬこの園の院上は雲の眼は院 大野長

大慈本野 山城

うらやねん老の金雲うら大あつこまは院にあめこ

拾遺歌
大原野

ふさのふはふ葉つとさうあつたあつた

東三条
左段上

大香堂

たわふ園はひる系めの竹のらさくさく唐せんとい

栗柄小野

河橋のふは小野れ花の乱るゑんたれゆへ大伴

足履せのふは橋のふとさうさうすの

百海野 杉津 万海野

そらけ花のたえよさうと信守のふとさう

八田野 遊ぶ

やこれ花上流舞交舞あつた山花あつた雪をさしほつた

野洲野 遊ぶ 野洲野

君のたえよさうと信守のふとさう

高野 大和 深土野

やこれ花上流舞交舞あつた山花あつた雪をさしほつた

小替野 山城 大和

足りのふは小野れ花の乱るゑんたれゆへ大伴

古柄小野 大和 山名小野 布田野 月野

ふさのふはふ葉つとさうあつたあつた

布田野

たわふ園はひる系めの竹のらさくさく唐せんとい

河橋のふは小野れ花の乱るゑんたれゆへ大伴

下甘馬原ふか秋風吹くよあはれ花の葉の記を

浅羽野 信濃

鈴あそびの聲は初めのつれなきうそ我らもや

浅井上へ向ふ小笠原言ふて銀地より我逝つらんを

栗津野 石江 深草大親

あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

栗津野馬の末系はゆりまゝあはれあつし野をささる

化野 末勅國 日本礼記化餘

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

浅田野 信濃

冬うら浅れ野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

吾妻野 大和

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

依野 上野

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

浅井野 山城 葛野親

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

浅井野 大和 吉野親

あはれ野あつし野ははる落つぬあはれ冬まゝあつし野をささる

二音野 凡そ子付ありぬと我の節記るんを後之節
凡そ之若葉摘んつて赤いりて露て日乾りぬ元捕
引てまてやんぬみりぬ 李の子日とてまてまて日

武苑

我の心とつらみりぬたぬじぬるやうとぬん葉平

二心野 古わ 添上親

春日山みまぬの梅花いりまゆかき

二為野 中 附水親

二為野をいりたつとまの山いりてをいりぬ
二為野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野 清奥 二文城親

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野 紀伊 幸業親

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野 山城 し利親

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野 冬河

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

二文城野をいりたつとまの山いりてをいりぬ

後拾三

二五

二七

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

百十少

了野

豊後

棒弓のつらまつたては是れ人よしのり人後記

百十少

日晩

大和

日晩のいそぎいそぎにけりしはあはれ

平野

山城

葛城

百十少

那由浦冬籠り花あきやの雲と風白雪乱降

菅原

信濃

百十少

信濃のいそぎいそぎにけりしはあはれ

相野

松野

百十少

松野とあはれけりしはあはれけりしはあはれ

原

百十少

盧原

駿河

あはれや清く開のふれりのせとてつとせは益人

生村原

筑前

百十少

昔人志のむねありしはあはれけりしはあはれ

涼しい風のそよぐはあはれけりしはあはれ

入野原

未勘国

百十少

心をあはれけりしはあはれけりしはあはれ

白瀬橋

城上

百十少

心をあはれけりしはあはれけりしはあはれ

燧原

著るべきはあはれけりしはあはれけりしはあはれ

後古

千之杉原 乙巳 如上記

常盤よりあけ杉原交原と本城に流れたのり一と五石

後古

小野藤原山城 丙辰記

後弟中州に於てありて是事と仰りて是れ今津冬等

後古

思田原 乙巳

東路よりあけ杉原をたう思田原よりあけ橋へ妻は師

羽元

中笠原 甲辰

しつうの葉風ふとくは鳥羽風も春めくはり是雅

着杉原 丙辰 乙巳重記

一丁元

天平十二願十月幸 伴膳岡時

保よあけ着杉原は是の地は城にたつてありて是れ

後古

礼伴 名義海記可変之

雪換より杉原をたうり是世のり玉津 丙辰 乙巳

一丁後古

春日原 大和

後にはは春日原と見後山杉より上あけより人元

丙辰

見後と春日原とあけより花の櫻 乙巳

一丁後古

着杉原は是の地は雪の風吹つては是れ今津冬等

春日野原

後古

神記の本巻の本巻の初より初記記と春日原は是れ

春日野原 乙巳 高橋記

一丁

春日野原は是れ今津冬等

春日野原 未勘圖

三野 檜麻のりぬれをとる凡れと山に法松風そ吹ぬ

五市 竹田原 山城 紀伊郡

ら後に竹田風うしふるあまのしるす時我うとる春草

高松原 大町

秋の嵐とて心書恋と廣く山に三野原れ上

三野 玉野原 近江

久のれ葉葉の香ととるて玉野原と月をんうる花

曾の原 信濃 伴物郡

けききれ梢やうあたるる影は原の影新しとる柳葉

五市 杉原やぬれをとるうとるききれとてんくあまの影故草

綴長原 山城 綴長郡

後五市 山守の山守れつこののうらうらうら風

七月のほろ風の秋葉とて年あまのうらうら香か信濃

五市 角杉原 栲津 武庫郡

あまの女さう焼火の影とてうらうら香か信濃

後五市 武庫野原 武庫郡

あまの女さう焼火の影とてうらうら香か信濃

浮湯原 強行

是うらうら用湯の影とてうらうら香か信濃

猪石野原 栲津

あまの女さう焼火の影とてうらうら香か信濃

野路藤原 強行

式説新語北名市只經經物惣名ヤ

後九 陸平不入八雲以抄地や或は枕教之皆爾入之

雲う野路の藤やう倦きうに教養たうん

山坂 山坂 山坂 山坂

大急し市業はうし我皇味ういあひわう 田舎

和名部

房と我皇をたやう志とのこすやう 相

山田原 伊勢の 互名部

神風や山田原の柳葉との志あといけむを江遊

きうよと爰とをせん 耶公山田原の松村之西

丁より門よりと事業と自教へ山田原の原と向ふとそ中を

神のまへ山田原の露ほよいううらそを世を

丁より野路原とわ 城上親

是より屋敷をやうと荒れあの新原を打てん

さうすのふたは原原志うり物産展はあひは基銀

巻向栲原 日記

巻向栲原と云うまふ事情は原原とて

巻向栲原と云うまふ事情は原原とて

真神原

ふくのさう原原原原とてふうそ家とてうと金原

其原原原原原

原原原原原原原原原原原原原原原原

終

布留野 長大和 山色和

若菜橋神とありきとある上より其の香海島へ家相

印部

長湯杉原 杉津河邊成原と記す之

津國のむらさきの終り終りしやぬや風雲

羽部

穴所杉原 大和 城上和

卷向のありしむらさきの花の雪がふゆはやぬ

夏

朝原 葛下和

松

金

金

霧立ちたむらさきの片是れ朝のうらみ雲志ぬらん霞の
あはれ若菜のまゝは雲の朝のなまをたてあう人丸
らに終りてあはれ是れは雲を結ひてあう人丸
咲初めの木田原花結と云うて書はぬをうはね

浅澤原

祇あいのありき名の中花もいふ名は風行

霞杉原 楠津

今も似る雲杉名は雲をいふ名は風行

安達原 浅奥 安達和

今も似る雲杉名は雲をいふ名は風行

思ひかゝる杉原河邊の杉原は雲をいふ名は風行

相杉原

鶴原和言懐

浅奥の杉原と云ふ名は雲をいふ名は風行

と云ふ名は雲をいふ名は風行

浅野原

後拾

流の上ありてその流終て上ありて下ありて

後拾

檀原 大淵 檀日本記

その海ありてこれ檀らありてその海ありて

拾三

切原牧 信濃

その坂の用ありて言はし山とてありてその約

頁

湯原 二わ

山とてありて言はし山とてありてその約

り

磁原 山城 山原

見の原とて言はし山とてありてその約

拾三

和とてありて言はし山とてありてその約

麦原

その山とて言はし山とてありてその約

三梅原 大和 城占記

下

その山とて言はし山とてありてその約

拾三

三梅原 吉野記

その山とて言はし山とてありてその約

拾三

その山とて言はし山とてありてその約

三梅原 杉原 西平記

下

大伴の三津原とて言はし山とてありてその約

後拾

三穂原 駿河 庵原記

その山とて言はし山とてありてその約

三城原 陸奥 三城原記

千三
この一可の三本うらりあふと具らうらうらと
義のまき葉のあふりたるは風立のまき葉のあふり

標第原 下野

ひまの城をあらうらのついでに我輩とては限と

信支原 清奥 信支原

人々の心は我が身の中をうらうらとあふり

藤原 加賀 江沼親をいそぐ

葉のうらうらと藤原や根のついでに妹のうらうらと後成

平野原 山城 昔の親

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

牧

小野原 清奥

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

清奥

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

炭原 山城

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

森

岩瀬 森 大町

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

ひまのうらうらと我が身の中をうらうらとあふり

後三
杉まで麻を鳴らう節のいかにそは葉の紅葉もよく

百九 岩田杉 山城

山城の岩田風葉の根うらんはやまう山うらん

山うらん岩田の杉とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 生田杉 杉津

後三
若風はこしぬ志地と清の國風の杉の根津

清の國の生田風の杉風とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 岩代杉 紀伊

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

後三
岩代杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 杉森 山城 お糸丸

杉原葉のそくく山うらんはやまう山うらん

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 杉原杉 山うらんはやまう山うらん

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 杉原杉 山うらんはやまう山うらん

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 杉原杉 山うらんはやまう山うらん

百九 杉原杉 山うらんはやまう山うらん

山うらん杉のいり山とてそくく山うらんはやまう山うらん

百九 杉原杉 山うらんはやまう山うらん

神宮の杉下草のしほり約日くうう神一云武東の院 雙葉屋

神南備杉 大和 平群郡

神宮月宮のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

知方へ梢雪のれあふくうう神のいふ杉 園白

柏本杉

くく本所ののあふりるさかふ山と我の杉

神宮のうたて柏本所のうたて替の園わの杉 高杉

紀杉 山城 北見郡

筑前杉の杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

月讀杉 伊勢

くうううの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

桑毛本杉 大隅

福の杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

いせの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

波徹杉 河内 交野郡

くうううの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

鶴谷杉 彦作

くうううの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

浮田杉 山城

くうううの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

くうううの杉のしほりきよひのしらけの神宮の杉の

大造城杉

冬

拾

後

拾

冬木の枝の下まきねれ物は光風をまき
あまの枝の枝本風とらふてふたのう枝は月後
大はも枝の紅葉をまきく下葉うく冬はまきり
郭公まきりてふたのう枝は紅葉をまきりて
後

光曾枝

近江

拾

冬木の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

気色枝

大隅

枝の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

本枝枝

駿河

きく枝の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

衣子枝

山城

枝の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

栗津枝

近江

園木の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

阿波子枝

尾張

くも枝の思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

万本枝

近江

言語部

三心之枝

大和

思出をまきねれ枝の枝をまきりて
くても枝の紅葉をまきりてふたのう枝は月後
紅葉

奏臣木

山城

^{拾三} あり事、後とある言の枯りしと、焉と云つて、

^{拾五} 信太毒 和泉

^{子二} 其たのゝゑと云ふ部、其の枯れ、こゝろ、又、
思ふ、こゝろ、や、こゝろ、嘆、まゝ、信太、枯れ、こゝろ、又、
こゝろ、云、信太、の本、と、云、海、と、云、其、此、

^{十三} 信太枯 淡鼻

^{拾三} さらさら、の、
信太、其、の、枯れ、こゝろ、

林

月林 山城

信太、月林、の、海、と、云、其、此、

じう、我、其、の、こゝろ、の、月、の、林、こゝろ、

^{拾五} 鶴林 天台佛入滅處

その、露、林、の、こゝろ、の、こゝろ、

中林 山城

^{拾五} 本、の、こゝろ、の、林、の、こゝろ、

用

倅用 淡鼻

^{拾九} あり、こゝろ、の、こゝろ、

礪石用 述中

^{拾六} あり、こゝろ、の、こゝろ、

多田 車花

多田の定上家の用も中流の定よりいへ

奈右衛門 澄典

次田とよき用も中流をさう山根か 義家

乃右衛門海老のゆきし漆のよきと用も中流

郭公とよき用ぬらせのよきと先上先上

平田用 義法 之助

霞つた家の用も中流のよきと先上先上

久保屋とよき用全の板いしあまはたかき板凡板

衣田

風の中衣田用也移れぬき行くと信

本橋用 山城

そらぬき本橋の用也本橋の最上先上

逢坂用 近江

後の用とよき用いりそらぬき

あまや柄花とよき用也本橋の最上先上

あまや柄花とよき用也本橋の最上先上

足柄用 相模

足柄の用也山根のよきと先上先上

高尾の用也山根のよきと先上先上

信守用 駿河

高尾の用也山根のよきと先上先上

仁用 仁伴

徳川の徳とてめとゆの仁の美とれとめとて金村
あつりよ仁の美とらつらゆとまてと

白川用 清泉

車馬のふとてや白川用とや花白とて
紅葉とれ花とらとての若とれとら白川の用とれ

下組用

車馬のふとてを仁とらとてとて下組用
仁補

春林の中での系とてとれたと玉とて仁補

冷席用 仁場

方きとれとれとて山雲仁用とれとて
須磨用 備磨又核津

山雲仁用とてとてとてとてとてとてとて
可成とてとてとてとてとてとてとてとて
懐とてとてとてとてとてとてとてとて

仁 仁

鶴社 甲斐

手とてとてとてとてとてとてとてとて
仁補

拾遺歌

名元歌

清奥

あさきとほしきゆきかき
あさきとほしきゆきかき
あさきとほしきゆきかき

宇和歌 伴藤

伴と藤の歌分りまて
伴と藤の歌分りまて

いそぐはむかしの歌
いそぐはむかしの歌

かろくもあまの歌
かろくもあまの歌

下らぶりの歌
下らぶりの歌

とほしきまの歌
とほしきまの歌

後布歌 清奥

清奥の歌分りまて
清奥の歌分りまて

都

奈良部 大和

あさきとほしきゆきかき
あさきとほしきゆきかき

古里の歌分りまて
古里の歌分りまて

可成り此部の歌分りまて
可成り此部の歌分りまて

難波部 橋津

首末の歌分りまて
首末の歌分りまて

宇治部 山城

杯の野の花の歌分りまて
杯の野の花の歌分りまて

久遠部

いそぐはむかしの歌
いそぐはむかしの歌

かろくもあまの歌
かろくもあまの歌

五
神代り吉野之文ありとしかる流儀也
花を今之の道より吉野文は其の曙
ありて吉野は又川流に流れてす
後成

高田文

五
交の神と衣を以て志を以て文
とて花や衣ん言ふの尾上は又風流の言

高津文 杉津

五
春風の月と昔也其の言はる津文と有杉文是延
高とる言津の文は杉津の流るん言

珠城文 太田

後
日かきまき文の桜花は流と極や垂りん言

那須宮 杉津

五
ありて那須の文は流るる杉津より舟の福也

長柄宮

海とありて文と極る

野文 山城 流儀 杉津 山雲

五
たのき野文の言はるる杉津より舟の福也

小銀宮 山和 言事

後
とて杉文の言はるる杉津より舟の福也

樟葉宮

五
ありて杉文の言はるる杉津より舟の福也

山神宮 山城

くまのくませうら山根に交れ葉葉とありは功と

不替交

文の交らとて御言を清くしよとらひのい

秋清交 大わ

尺らね秋清の交に神あり

世に交 大清交

河原やとら交み風も雲たな引交りちう

清見原交 大和

あまうねらうの交よりあめの一

水江純野交 丹後一院抄中

あれはのれ交を和ひてういふちう海に

清宮 大わ

高し交しちの地へ漢のあまい地を人丸

橘の交り交ありこれさいれとらあめ

里

泉里 山城 お糸丸

家今垂さやと鴨写るは事とれ(行)て

勢之里 紀伊 奥別を同右

足あふさうと足はあれはあめの異は

生野里 丹波

まらやのうと純ねらうの異は

初瀬里 大わ

千鳥のこゝろをうらむるは初めは鳥の枝うらむる

十市里

文より安のこゝろ月を十市里と云ふ程

そ浦里 舟

白浪はあつてはるるは里のこゝろ

鳥羽田里 山城

中より宿風は月をうらむるは里に云ふ

常盤里

春風をうらむるは山里に云ふは里に云ふ

音音里 几休

直侘れ初と云ふは程をうらむるは里に云ふ

小野里 山城

雷はこゝろをうらむるは里に云ふは里に云ふ

音羽里

しるしは音の里に初めは里に云ふは里に云ふ

春日里 大町

雲のこゝろは里の梅花山をうらむるは里に云ふ

祈南備里

清くせよの里をうらむるは里に云ふは里に云ふ

桂里 山城

空よりうらむるは里に云ふは里に云ふは里に云ふ

交野里 竹内

後括ハ

あふ事かこめり星はらの座はれ赤くよはれ来

後拾

湊倉里 ね模

文相うききたる邊と今とさくへんむすの里 湊倉

千十

新田里 湊奥 多紀郡

らるや新田里指はれ月日とていふに 延暦

五十六

芳野里 大和

物もあはれ月の月とていふと昔は湊奥の里

後拾

玉川里 湊津 湊奥同右

千又

見はれ浪の音とていふと湊奥の里は模

日六

標の音とていふと湊奥の里は模

月とていふと湊奥の里は模

前拾

玉川里 肥前

標の音とていふと湊奥の里は模

後拾

玉川里 回不審

湊奥の音とていふと湊奥の里は模

後拾

新田里 湊津

湊奥の音とていふと湊奥の里は模

千二

井手里 山城

湊奥の音とていふと湊奥の里は模

千五

大原里 小野

湊奥の音とていふと湊奥の里は模

日六

日較う雷をいふと湊奥の里は模

栗本里 近江

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

山科里 山城

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

海草里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

伏見里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

藤原里 大和

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

本膳里 山城

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

朝日里 中野

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

戸倉里 朽津

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

秋篠里 大和

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

あまてぬる言新よきあれつらさ上栗本里

荒島里

我せりう家の儀ありてふるの事なり
ありけりけりけりけりけりけりけり

信長之妻里 信法

文想者う月里へあはれりてうへりて

着到里 大和

う衣ききりけりけりけりけりけり

之箕里 山城

之別也りの里とてうへりてうへりて

後臣野里

山城のりけりけりけりけりけり

以吉野里 大和 一院寺

因てあれりけりけりけりけりけり

其れりけりけりけりけりけり

水吉野里 板津

のりけりけりけりけりけり

信長里 津奥

あはれりけりけりけりけりけり

後加美里 近江

相争りけりけりけりけりけり

日置里

日置りけりけりけりけりけり

任者里 杉津

任者里 杉津の春花のきりぎりすのきりぎりす
単の名と云ふやうに都の月日は任者の里

菅原里 大町

菅原里 大町の菅原里

菅原里 依見里

菅原里 依見里の菅原里

衣のきりぎりすや依見里の菅原里

村

千松村 近江

千松村 近江の千松村

高松村 山城

高松村 山城の千松村

長田村 丹波

長田村 丹波の千松村

雲田村

雲田村の千松村

榎村 近江

榎村 近江の千松村

馬柳村

馬柳村の千松村

園
芳野花園左

初

宇治花園山城

志多美花園近

上

首分の邊家ある世より山打の花園並法
河邊也三所れた園々有首の分りててし成体
交本ありありや比してさ方んけらるる意は
園

田

鳥羽田 山城

初

石山とて月の初とてはれはるる存るの園

初

小野山田

こまやの山田地りこまはるる存るの園
竹田

初

筑波根次藤田升 常陸

席田

美法

席田親

初

依身之田升 山城

布留早田 大和

山名親

ひら田山とてはれはるる存るの園
志多美花園近

若くは風のき神はひき雲はなみしる風は

二三文 出

かろく神は麻白雲の風はえのりよめを
本は業師しきりせの中堂は事よるな

度會宮

こののき風の神はひき雲はなみしる風は

神南備神太

神の風はひき雲はなみしる風は

麻鴻神 常津

霞方ぬり神はひき雲はなみしる風は

輕社 大和

ふき雲はなみしる風は

笑宮社 山城

らるる神はひき雲はなみしる風は

ふき雲はなみしる風は

春日社 大和

ふき雲はなみしる風は

葛城社

いり月らせりて神はひき雲はなみしる風は

名推文 鏡

ふき雲はなみしる風は

戸忌神 山城

神之大
信成

拾 〇の事あり神のなほり 雁 杉 万 世 之 始 女 多 り 行 勢

後拾 撰

中野宮

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

後拾

中野宮

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

之帰 ちわ

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

寺定林

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

平野 山城

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

日吉 とも

拾

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

以敷新

拾

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

一と神

後拾

一と神

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

任者 横津

拾

ち予より神のお跡と流るる後をいへりて地や思ふ人 定家

釋教 淨寺

淨寺 浄寺

三十三 寺

後文 寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

寺

後拾六

以勅撰者則和亦為連歌用意宗頑淨粉在
之分者上下二冊則謂芳野山詠花詠田川
題紅葉之類其教不可勝計略云江一兩首於詠
河京物也之言也之九連亦付合其五續後撰
集一因本亦之由去年重寫同
天氣今治定早於依例者之新續古今集
訂用之間今則戒以抄入諸亂漏脫事未從可
加取捨之予一覽之次聊錄大總而已

永正丙寅林鐘上旬

櫻法教人

少刻



右勅撰者乃集忠保為形見予
今授又年

寛文二年二月廿六日

遺

〇〇

